

令和5年度(令和6年度実施)事務事業評価

事業整理番号 0301 - 05

事務事業名 区民活動支援事業補助金審査委員会運営事業 担当組織 区民部 区民活動推進課

事業特性										
事業開始年度	30年度以前	事業終了年度		計画ノ一般	一般	計画事業No.				
	単独ノ補助	区単独事業	運営形態	直営	関連するSDGsゴール	11	17			
事業を構成する予算事業	①	区民活動支援事業補助金審査委員会運営経費			②					
	③				④					
	⑤				⑥					

政策体系(令和5年度基本計画)			
地域づくりの方向	あらゆる主体が参画しながらまちづくりを実現していくまち	政策	地域力の向上に向けた参画と協働の推進
施策	地域における区民参画・協働の推進	政策番号	1-1-1
関連する個別計画		計画策定年度	計画期間

1. 事業の概要・指標の達成状況									
(1)実施の対象(具体的に記載)	区内地域活動団体								
(2)事業の目的・期待する効果	区民活動支援事業補助金は、区民の自主的な社会貢献活動が促進・強化され、区内で多様な活動の担い手が育成されることを目的とする。本補助金審査委員会が募集内容や申請事業の評価を決定し、地域貢献度の高い事業の拡充並びに補助金の公正かつ効果的な交付等財政運営の透明性の確保を図る。								
(3)事業概要	区の附属機関である区民活動支援事業補助金審査委員会の事務を行う。								
(4)目標の達成状況	5年度の取組内容 5年度に実施した具体的な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> 審査委員会を8回実施 新規申請事前相談を実施(7月) 補助金交付申請のあった59事業を審査、うち、14事業のプレゼン審査を実施。 事業の申請窓口となる各所管課に対し、申請受付前及び補助金清算時期に説明会を実施(6月、1月) 							
	成果指標 事業目標の達成度	成果指標	目指す方向性	単位	4年度(実績)	5年度(計画)	5年度(実績)	(達成率)	6年度(計画値)
	①	新規補助金交付決定事業割合	→	%	100	90	75	83.3	90
	②	多様な主体の連携によるまちづくりが進んでいると感じている区民の割合	↗	%	30	29	31.6	109.0	29
	③								
指標の説明	①新たに申請された補助事業のうち交付が決定した事業の割合、②協働のまちづくりに関する調査で「さまざまな地域活動団体やNPO、企業、大学、行政等の連携によるまちづくりが進んでいる」について肯定的な回答をした区民の割合								
達成状況	一部未達成	未達成または一部未達成の理由	①審査委員会の審査の結果、新規申請4事業のうち1事業がD評価(交付なし)となり、新規の交付決定事業割合が計画を下回った						
(5)取組実績	活動指標 事業の実施状況	活動指標	目指す方向性	単位	4年度(実績)	5年度(計画)	5年度(実績)	(達成率)	6年度(計画値)
	①	補助金申請事業数	↗	事業	54	63	59	93.7	63
	②	新規補助金申請事業数	↗	事業	2	5	4	80.0	5
	③	補助金審査委員会開催数	→	回	7	8	8	100.0	8
	指標の説明	①補助金申請された事業数、②新たに補助金申請された事業数、③審査委員会の開催数							
達成状況	一部未達成	未達成または一部未達成の理由	①隔年実施や組織体制の変化による中止があり計画を下回った。②新規の事前相談は8件とコロナ前の水準に戻ったが、事業の検討や他助成利用など4事業が申請を取り止めたため計画を下回った。						

2. 事業費の推移								
単位 (金額の項目:千円 人数の項目:人)		4年度		5年度			6年度	
		予算	決算	予算	決算	執行率	予算	増減(R5決算比)
事業費	A	810	682	825	823	99.7%	819	-4
財源内訳	国、都支出金	0	0	0	0		0	0
	使用料・手数料	0	0	0	0		0	0
	地方債・その他	0	0	0	0		0	0
一般財源	C=A-B	—	682	—	823		819	-4
正規職員人数※小数点第1位まで		0.9	名	0.9	名		0.9	名
会計年度人数※小数点第1位まで		0.0	名	0.0	名		0.0	名

3. 総合評価及び令和6年度以降に向けての対応・改善策

(1)令和5年度成果と課題	【指標の達成状況(a)】 →S、A、B、C、Dの5段階で評価	B	根拠	成果指標及び活動指標に未達成はあるが、相談件数の増加など指標に表れない成果があるため。
	※上記の達成状況を踏まえ、評価及びその根拠を記載してください。 ※以下の欄には、①目標に対する成果結果の課題、②指標以外の数値では測れない効果について記載してください。			
	①目標に対する成果状況を踏まえた課題 前年度より補助金申請及び新規申請の件数は増加したものの計画値には至らなかった。地域への広報を強化し、補助金を必要とする団体への一層の周知が必要である。また、新規申請の事前相談を継続し、初めて申請する団体に制度及び申請書作成方法の丁寧な説明を行い、補助金交付に向けた支援が必要である。			
②指標に表れない事業の成果(指標以外の成果) 新規申請件数は4事業であるが、8件の事前相談と10事業超の問合せがあった。また、従来の審査委員会でのプレゼン審査(対面)に加え、プレゼン動画による審査を導入したことで、対象を昨年度の4事業から14事業に増やし効率的に審査の充実を図ることができた。				

(2)業務(事務)改善にむけての取り組み	【業務(事務)改善に向けての取組み(b)】 S、A、B、Cの4段階で評価 →	A	根拠	課題に対する対策を講じ、事業改善したため。
	※下の確認事項の内容を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。 ※昨年度に何らかの対応、改善を行い、事業を大きく前進させる成果があった場合のみ「S」評価としてください。			
	①目標に対する成果状況を踏まえた課題(再掲) 前年度より補助金申請及び新規申請の件数は増加したものの計画値には至らなかった。地域への広報を強化し、補助金を必要とする団体への一層の周知が必要である。また、新規申請の事前相談を継続し、初めて申請する団体に制度及び申請書作成方法の丁寧な説明を行い、補助金交付に向けた支援が必要である。			
	②現状の実施状況における所管課の認識			

事業の中に環境変化に合わなくなったものはあるか。	無	選択した理由	状況に応じてオンライン会議等効率的な委員会運営を行っている。
直営や委託等の様々な手法を比較検討しているか。	無	選択した理由	区の附属機関の運営業務のため直営以外の検討はしていない。
サービスに係るコストは適正か	適正	選択した理由	規定に基づく審査委員報酬等必要最小限のコストで運営している。
統合した方が効率的にできる可能性のある事業はあるか。	無	(有の場合)事業名	

③上記①、②を踏まえた所管課の対応実施状況

対応、改善を既に行った	はい	はい	取組内容及び効果	審査委員会の指摘を踏まえ、動画プレゼンの導入や評価方法の変更を行い、審査方法を改善した。	予算措置	無
はい・いいえどちらも (はいの場合は更なる対応・改善の予定)						
対応、改善の予定	有	無	対応、改善の予定がない理由			
有	対応、改善の内容	無	有	予算措置を伴わない実施との比較検討	予算措置を伴う理由	
	団体が申請書に事業目的や事業改善などを十分記載するよう、募集要項改訂及び事業所管課と連携して団体の申請を支援する。					予定時期 令和6年6月

(3)必要性/優先度	【区が実施する必要性(c)】 S、A、B、Cの4段階で評価 →	A	根拠	社会貢献活動やその担い手の育成を目的とする本補助金の公正かつ効率的な交付および地域貢献度の高い事業の拡大・充実を図るために、学識経験者等第三者による審査委員会の運営は、附属機関として区が実施する必要がある。																	
	※下の確認事項を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。 ※「区の他の事業より注力すべき事業」または「区民ニーズが大幅に増加している」の場合のみ「S」評価としてください。																				
	①区が実施する理由(複数選択可)																				
	<input type="radio"/> 区の他の事業より注力すべき事業である。 ※部の主要課題のうち、特に優先すべき事業の場合チェック <input type="radio"/> 民間事業者等に同様のサービスがない。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">法律の要請を受けて行う事業である。</td> <td style="width: 50%;">その他(理由)</td> </tr> </table>				法律の要請を受けて行う事業である。	その他(理由)															
法律の要請を受けて行う事業である。	その他(理由)																				
②区民ニーズ																					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">区民ニーズを表す指標</td> <td style="width: 15%;">有</td> <td style="width: 15%;">有</td> <td style="width: 10%;">指標番号(成果)</td> <td style="width: 10%;">指標番号(活動)</td> <td style="width: 10%;">①</td> <td style="width: 10%;">②</td> <td style="width: 10%;">サービス利用者数</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推移</td> <td>推移</td> <td>↗</td> <td>↗</td> <td></td> </tr> </table> <p>有・無どちらも</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">区民ニーズに対する認識</td> <td>区の附属機関である区民活動支援事業補助金審査委員会の審査は、公金の適正交付及び地域貢献度のより高い事業への支援につながり、指標にはない潜在的な区民ニーズがあると考える。</td> </tr> </table>				区民ニーズを表す指標	有	有	指標番号(成果)	指標番号(活動)	①	②	サービス利用者数				推移	推移	↗	↗		区民ニーズに対する認識	区の附属機関である区民活動支援事業補助金審査委員会の審査は、公金の適正交付及び地域貢献度のより高い事業への支援につながり、指標にはない潜在的な区民ニーズがあると考える。
区民ニーズを表す指標	有	有	指標番号(成果)	指標番号(活動)	①	②	サービス利用者数														
			推移	推移	↗	↗															
区民ニーズに対する認識	区の附属機関である区民活動支援事業補助金審査委員会の審査は、公金の適正交付及び地域貢献度のより高い事業への支援につながり、指標にはない潜在的な区民ニーズがあると考える。																				

総合評価(d) = a + b + c	ランク2
---------------------	------

4. 【前年度事務事業評価対象事業のみ】改善に向けた取組内容について

<p>(前年度事務事業評価表) 4「所管課の認識・R5年度以降の対応」を記載</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対面に加え、動画によるプレゼンテーション審査を導入し、発表を通して申請事業のブラッシュアップを促す。 ・事業の評価方法を、現在の所管課と審査委員の採点を合算して評価する方法から、所管課評価は審査委員の審査の参考とし、審査委員の採点のみで評価する方法に変更する。
<p>上記の改善に向けて取り組んだ内容を記載(未着手の場合には理由を記載)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対面8事業、動画視聴6事業、計14事業のプレゼン審査を実施した。プレゼン審査では、審査委員会による事業の課題や疑義の確認が行われ、団体の事業の振り返りや改善検討の機会となった。 ・事業の評価方法を所管課と審査委員の採点を合算して評価する方法から審査委員の採点のみで評価する方法に変更した。また、所管課採点表のチェック式の共通項目や基準点の設定など、所管課評価のバラつきに対する改善を図った。

改善に向けた取組内容についての自己評価 (e)	予定通りに進んだ	根拠	プレゼン審査の拡充や審査委員採点による事業評価で審査の精度が高まったため。
-------------------------	----------	----	---------------------------------------

5. 令和6年5月末時点の状況

①令和6年度当初の課題・ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・広く補助を必要とする地域団体に本補助金を周知し、新規申請の増加を図る。 ・審査委員会から意見があった申請書への「事業目的」や継続事業の「事業改善」の十分な記載を申請団体に促す。
②国・都の動き(関係法令の改正・補助金の創設・方針の変更など)	なし
③令和6年度の方向性・取組方針(事業展開)	<ul style="list-style-type: none"> ・区の広報誌やホームページ、区施設へのチラシの配架に加え、SNSを活用して申請事業を募集する。 ・団体が申請書に事業目的や事業改善などを十分記載するよう、募集要項改訂及び事業所管課と連携して団体の申請を支援する。
④令和6年度の事業進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・募集要項の改正を行った(様式の変更、記載例の変更)。 ・所管課への説明会を実施した。事業の目的等申請書への十分な記載について、審査委員の意見と記載の必要性を説明し、所管課と連携して団体の申請支援を行う。 ・SNS(公式X、ピアッツァ)に補助事業募集記事を投稿した。
⑤区民等からの事業に対する意見・要望	なし
⑥上記⑤に対する対応	なし

-----以降の項目は、評価内容を踏まえて管理職が記載してください-----

今後の事業費予算要望 (f)	現状維持	根拠	区の公金を適正かつ効率的に交付するためには、補助金事業の審査は重要なことであり、現行の規模・質を維持するためには、同程度の予算は必要であるため。
----------------	------	----	--

今後の事業の方向性(d+e+f) (現状の評価および施策評価を踏まえた評価)	A	※eは該当の事業のみ加味
---	---	--------------

上記判断と今後の事業の方向性を踏まえ、令和6年6月以降に向けての対応を記載(改善方法、課題への対応など)	
<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション審査は、対面とプレゼン動画の審査方法を継続する。審査委員会が指定する事業すべてのプレゼンの実施を図る。また、団体用の記録と動画プレゼンの準備を兼ねて、申請団体に対して申請事業を記録することを依頼する。 ・区の附属機関である審査委員会の意見を所管課に伝え、また、所管課と連携して、申請団体の自主性に配慮しつつ団体の支援に取り組む。 	